

Logan CM, Rice MK 編著・大石 実 監修

ローガン医学略語辞典

(四六判 630 頁 5,974 円 (税込) 1990 年 医学書院 刊)

後藤 文男

(慶応義塾大学医学部神経内科)

最近、社会全般に略語が氾濫している。医学の領域もその例外ではない。略語の使用は専門家同士の間では簡明で非常に便利である反面、ちょっと専門がずれると全く分からないことが多い。それどころか、とんでもない誤解を生むことも稀ではない。例えば、MS は循環器科では mitral stenosis の略であり、神経内科では multiple sclerosis の意味である。もっと領域を変えれば、mental status, mediastinal shift, mongolian spot, mass spectrometry などの意味に用いられることもある。このように、略語に遭遇して意味の明らかでないとき、一般の医学用語辞典を参照しても必ずしも解決しない。まして教科書を調べてみても略語が使われているとは限らず、該当する用語を捜し当てるのは至難の技である。このようなとき、最も役立つのは医学略語辞典である。

今回、大石博士の監修で医学書院から出版された「ローガン医学

略語辞典」はその代表的なものである。本書の原本である Logan's Medical and Scientific Abbreviation は、1987 年にアメリカの J B Lippincott 社より出版されて以来、医学とその関連分野も含めたスタンダードな医学略語大辞典として広く世界中で使用されている。原本では英語の略語から英語の医学用語を引くようになっているが、この日本語版は英語の略語から英語と日本語の両方の医学用語を引けるようになっているので大変便利である。

翻訳書における医学用語の和訳は、しばしば訳者の私的翻訳が多く、公式のものでないため使いにくいことがある。しかし、本書の医学用語の和訳は日本医学用語委員会編の医学用語辞典に準拠しており、薬品名は日本医薬品集を参照しているので、和訳用語もスタンダードな用語であり、安心して使うことができる。

また、この日本語版は単に英語版を和訳しただけではなく、日本

人向けに数多くの改良が加えられている。例えば、日本で普及しているドイツ語・フランス語の略語や抗生物質の略語も加えられている。さらに日本語の医学用語から英語の医学用語と略語を引くこともできるように、和英略語という索引がついている。そのほかにも摂氏・華氏温度換算表やポンド・キログラム換算表の付録もついており、外国人の診療の際にも役立つ。このような細かい配慮は、監修者大石博士が米国における長い研修生活を経て、日本における医学教育者としての経験に基づくものと言えよう。

博士は日米両国の医師免許証はもとより、専門医としての資格も有しており、日米の医学に通暁している。欧米の一流誌にも英独仏語で多数の論文を発表している語学の天才でもある。

この種の辞典の監修者として最適と思われる大石博士によって編纂された本書は、信頼できる総合的な医学略語辞典として、医師のみならず、看護婦、臨床検査技師、その他のパラメディカル・スタッフや医学ジャーナリストなど医療に関連したすべての人々にとって必携の書といえよう。広く江湖に推薦する次第である。